

2021年 1月 7日

記者発表資料

名古屋三の丸ルネサンス期成会

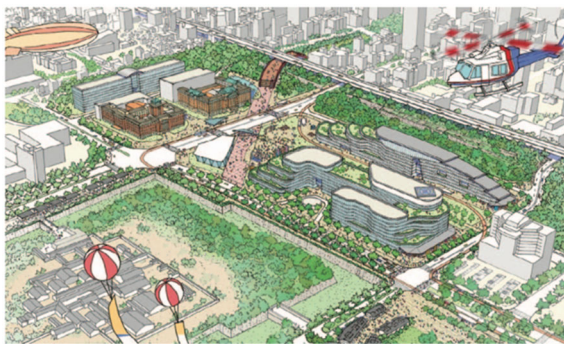
名古屋三の丸ルネサンス期成会の設立 及び、三の丸地区再整備への提言について

ポスト・コロナ、ポスト・リニアの時代を見据えて、名古屋の都市力を高め、東京一極集中を是正することを目指し、名古屋・三の丸地区の再整備からはじまる城下町再生、すなわち「三の丸ルネサンス」の実現を期成して、学識経験者、民間団体の有志が中心となり、名古屋商工会議所、中部経済連合会等の諸団体の賛同を得て、名古屋三の丸ルネサンス期成会を設立した。(資料1 発起人・賛同団体一覧、設立趣意書)

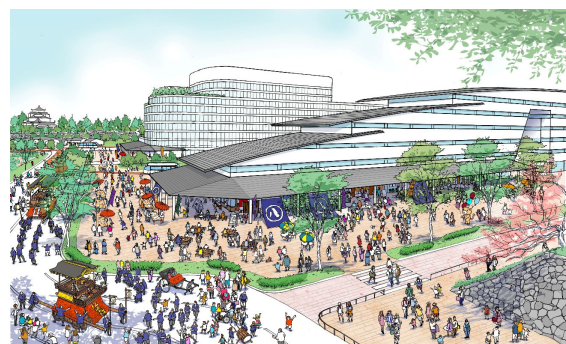
期成会は、その活動の端緒として、名古屋商工会議所、中部経済連合会による東京一極集中是正のための提言の検討とも連動し、三の丸地区再整備のまちづくりの方向性について、国、愛知県、名古屋市に対する提言をとりまとめた。

今後、国、愛知県、名古屋市の諸機関に対して提言を伝えると共に、三の丸地区再整備への関心を高め、質の高いまちづくりを実現するための議論の活性化を図る。(資料2 提言書)

<提言書の参考イメージ図>



三の丸地区再整備のイメージ



本町通りから見た再整備のイメージ

注) このイメージ図は、期成会が独自に作成したものであり、国、愛知県、名古屋市と調整したものではありません。

《連絡先》

三の丸ルネサンス期成会 事務局 (株)日建設計名古屋オフィス 青木

TEL : 052-261-6131 E-mail : sannomaru.nagoya@gmail.com

【資料1-1】

名古屋三の丸ルネサンス期成会

1. 発起人

奥野 信宏 (代表)	元名古屋大学 副総長
加藤 義人 (幹事)	岐阜大学 客員教授
佐藤 久美	名古屋国際工科専門職大学 教授
鈴木 伸夫	NSK 映像倶楽部
服部 敦 (幹事)	中部大学 教授
藤井 良直	中部国際空港株式会社 取締役
福和 伸夫	名古屋大学減災連携研究センター センター長・教授
森川 高行	名古屋大学未来社会創造機構 教授
山本 秀樹 (幹事)	日本プロジェクト産業協議会 中部委員会

2. 賛同団体

名古屋商工会議所

中部経済連合会

日本プロジェクト産業協議会

公益財団法人中部圏社会経済研究所

(以上)

名古屋三の丸ルネサンス期成会 設立趣意書

名古屋三の丸は、変化の時期を迎えようとしている。

ながらく、国、愛知県、名古屋市の官公庁施設が集まる落ち着いたまちとして時を過ごしてきたが、本丸御殿、金シャチ横丁、木造天守閣などの名古屋城プロジェクトと久屋大通の再生プロジェクトとの狭間（はざま）にあって、長い眠りからの目覚めを期待する声が高まってきている。

リニア中央新幹線の東京―名古屋間の開通に伴い、東京一極集中の是正につながる全国的な対流の中心となるべき名古屋市都心部では、国際的・広域的なビジネス・交流の拠点としての魅力を高める取り組みが不可欠である。このためには、名古屋駅周辺と栄を結ぶ東西軸だけでなく、名古屋城周辺と金山を結ぶ南北軸を強化し、SRT 構想に示される新たな交通ネットワークで回遊性と賑わいの向上を図る必要があり、三の丸はその枢要な位置を占める。

古来、三の丸は、清州越しに始まる城下町・名古屋の発展の起点であり、大名屋敷が集まり、名古屋三大祭が賑々しく催行された歴史的な記念地である。三の丸を起点とする本町通りは名古屋都心を通して、大須、金山、熱田につながる歴史都市・名古屋の背骨である。三の丸の目覚めは、戦災復興の中で近代化を進めてきた名古屋都心の基底に眠る城下町を再生するルネサンスの始まりである。

城下町のまちづくりは地震・水害に備えた防災まちづくり、地域強靱化のはじまりでもあった。堅牢な熱田台地の北の起点に位置する三の丸は、東海・東南海地震や大規模水害の発生に備えて、名古屋圏の防災拠点としての機能を一層高め、首都に有事ある際のバックアップ機能を備える役割が期待される。

官公庁施設が更新時期を迎えつつある今、リニア中央新幹線開通後の都心大改造に向けて、三の丸のルネサンス的まちづくり、すなわち「三の丸ルネサンス」を開始する千載一遇の好機である。現在、我々を襲うコロナ禍をくぐりぬけ、ポスト・コロナを生き残ることができる東京から地方への機能分散の先導的な取り組みとして、新たな都心づくりに果敢に着手すべき時でもある。

三の丸の再整備については、すでに、学識経験者・民間の会議で3年間の検討を経た構想が示されている。本会は、この構想を踏まえつつ、新たに「三の丸ルネサンス」をポスト・リニア、ポスト・コロナの時代における東京一極集中是正の旗頭として掲げ、その実現を期成して、国、県、市をはじめ、各方面に働きかけを行うことを目的とし、先の会議の参加者が中心となり、名古屋圏の主要な関係団体の賛同を得て、ここに設立するものである。

2021年 1月 7日 発起人一同

2021年 1月 7日
名古屋・三の丸ルネサンス期成会

提 言

「三の丸再整備からはじまる城下町再生：三の丸ルネサンスの推進」

本会は、名古屋三の丸地区の再整備から始まる城下町再生、すなわち「三の丸ルネサンス」の実現を期成して、名古屋・中部地域の経済団体等の賛同を得て、有志により結成した政策提言組織である。活動の端緒として、三の丸地区に関する国、愛知県、名古屋市の諸機関に対し、以下のとおり提言する。

1 三の丸地区再整備をめぐる気運の高まり

城下町・名古屋のシンボルである名古屋城では、本丸御殿の復元、金シャチ横丁の整備、名城公園の民間活用が実現し、木造天守閣の復元が期待されており、一方で、現代都市・名古屋のシンボルである名古屋テレビ塔の周辺では久屋大通公園の再整備が実現した。三の丸地区は、この間にあって主に官公庁施設のみが立地し、余裕のある静かな空間が広がっている。三の丸地区には、官公庁機能を維持しつつも、名城地区と栄地区の新たなにぎわいを結ぶ都市機能の導入が期待される。



本丸御殿の復元

(出典：名古屋城公式ホームページより)



久屋大通公園の再整備

リニア中央新幹線開通に向けて、都心の回遊性を高める新たな交通機関（SRT）の構想が立案されており、三の丸地区は、名駅地区から栄地区へとつなげる交通結節点としても期待されている。

一方で、三の丸地区は、その地盤・標高等から地震・水害に対して強靱であり、災害対策の拠点として最適地であることから、南海トラフ巨大地震への対応を

【資料2】

想定した広域行政機能の強化が期待され、あわせて、首都に有事があった際にバックアップ機能を確保すべきであるとの論調も高まっている。

これらの声を受けて、学識経験者、民間団体により、三の丸地区再整備を検討する研究会が近年開催され、三の丸地区再整備の構想が提案されている。本提言は、この構想検討の成果をもとに、新たな視点を加えたものである。

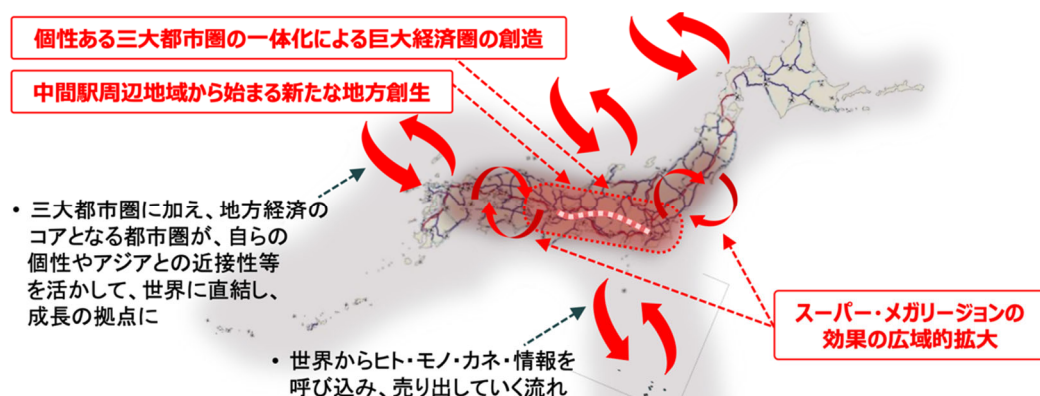
こうした動きの中で、老朽化が進んだ官公庁施設の耐震化・更新の時期を迎え、旧-名古屋貯金事務センターの移転をきっかけに、官公庁施設の集約・移転の検討が進展しており、三の丸地区の官公庁施設群は今後、順次、建て替えが検討される段階に突入したところである。

この機会を逃せば、三の丸地区に新たな都市機能を導入することは半世紀以上にわたり困難になることから、当事者である国、愛知県、名古屋市をはじめ、広く市民、県民、国民の関心を高めて、名古屋都心のまちづくりの百年の計を大いに議論し、その実現を図るべきである

2 東京一極集中是正から見た名古屋・三の丸地区の重要性

2020年に世界、日本を襲ったコロナ禍により、高密度な東京を避け、地方に機能を移転しようとする機運が高まっている。感染拡大防止のためのリモートワークの普及は、今後も不可逆的な影響を残し、地方への機能移転を後押しすることが予想される。

2027年度に予定されるリニア中央新幹線の開通は、国土レベルの人や情報の対流を引き起こすことが期待されており、コロナ禍での地方分散の動きを促進するものである。特に、ターミナル駅が設置される名古屋は、国内で最大規模の2時間移動圏の中心となり、空間的・時間的・経済的に豊かなゆとりを



スーパーメガリージョン形成のイメージ

(出典：国土交通省・スーパーメガリージョン構想検討会 最終取りまとめより)

【資料2】

具備した大都市となることから、コロナ禍の経験に基づく東京一極集中是正の動きを牽引する役割が期待される。

さらに、首都圏には、首都直下地震、感染症対策などの多様なリスクが懸念されており、有事における首都バックアップ機能をリニア中央新幹線等で複線的に結ばれる名古屋において確保することが期待される。

名古屋大都市圏への首都の機能移転は、行政機能と民間機能の両方が想定される。三の丸地区は東京・霞ヶ関地区に次ぐ我が国第二の官庁集積地区であること、名古屋城や久屋大通の再整備の間であって開発ポテンシャルが高いことなどから、行政・民間の諸機能の移転を促進する再整備に適した戦略的な重要性を有している。

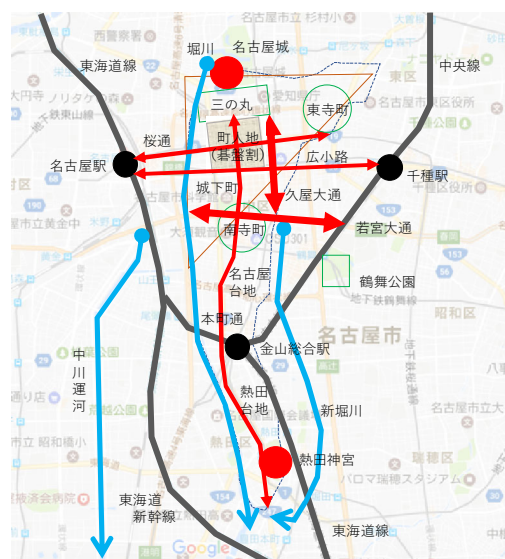
3 三の丸ルネサンス「三の丸地区から始まる城下町再生」への期成

1610年の名古屋城築城に始まる名古屋城下町の建設は、従来の拠点都市であった清州から行政・民間の諸機能を熱田台地の高台に移す「清州越」と呼ばれる一大事業であった。この事業は、水害、地震の被害を度々うけてきた清州から都市機能に移転した事前復興の先駆であり、防災まちづくりの原点である。

名古屋の城下町では、徳川宗春が尾張藩主であった時代を中心に、全国からものづくりの職人や芸能者を集めて、ものづくりや芸どころの文化が生まれ、交流と文化の一大都市として栄えた歴史を持つ。その象徴として、京都祇園祭に匹敵する絢爛豪華な名古屋三大祭りが江戸期から戦前にかけて毎年行われ、数多くの山車が本町通りを練り歩き、神社があった三の丸地区でカラクリが奉納披露されていた。

明治以降の近代化、戦災復興のための大規模な土地区画整理事業により、名古屋城から熱田湊を結ぶ本町通りを主軸とする城下町の姿は次第に薄れていき、名古屋駅と栄を結ぶ東西の道路、久屋大通・若宮大通などに上書きされ、市民からも、観光客からも意識されなくなっていくた。

日本の近世の歴史を象徴する、国内でも稀有な歴史都市を原型としながら、歴



名古屋の都市構造
：城下町と近代の基盤整備

【資料2】

史的な価値が希薄化したことにより、名古屋市民は郷土に対する自信を失い、名古屋を訪れる国内外の訪問客も歴史都市へのリスペクトを感じる機会を失った。

いま、三の丸地区では、本丸御殿復元から天守閣木造化へと続く取り組みの中で、歴史的な価値に再び注目が集まっており、また、南海トラフ巨大地震等の災害リスクの高まりから、清州越が示した防災性への期待が高まっている。

三の丸地区再整備において、国際的な交流・文化機能を高め、広域的な防災機能を強化することは、清州越しの城下町づくりの原点に回帰しつつ、ポスト・コロナ、ポスト・リニアの新たな時代へと扉を開く城下町の再生へとつながる重要な第一歩である。この取り組みにより、名古屋市民は郷土への自信を確かにし、訪問者は歴史都市へのリスペクトを持って記憶を刻み、名古屋は都市としてのプライドを取り戻すだろう。

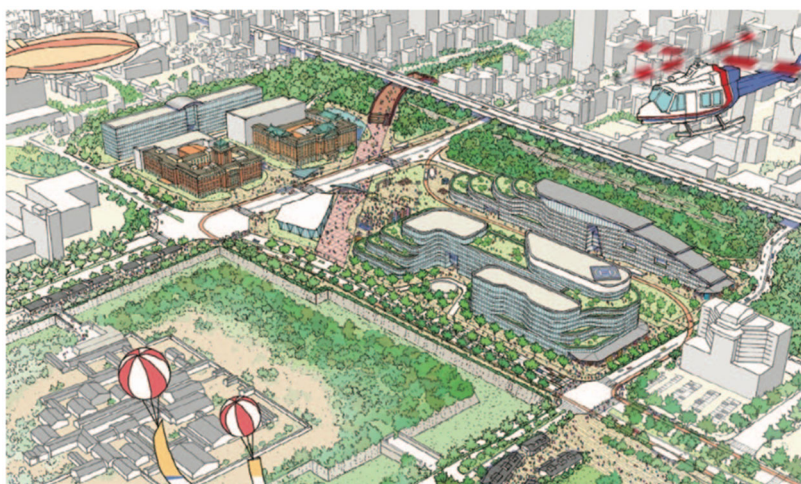
三の丸地区再整備は、本町通りに沿って金山、熱田へとつながる城下町再生のはじまりであり、私たちはこれを「三の丸ルネサンス」と名付ける。ここに、三の丸ルネサンスの実現を期成する。

4 三の丸地区のまちづくりに向けた5つの提言

三の丸地区の再整備によりまちづくりに向けて、次の5点を提言する。

1) 官庁街への文化・交流機能の導入

三の丸地区に集積する官公庁施設は、旧-名古屋貯金事務センターの移転を皮切りに、今後、順次、建て替えを進めていくことが予想される。この際、国、愛知県、名古屋市は、現在地において従前機能を確保することに留まらず、新たな時代に



三の丸地区再整備のイメージ

(出典：三の丸地区再整備研究会「提言:名古屋三の丸地区再整備の今後の展開に向けて」より転載。一部、本会が加筆修正。以下のイメージ図で同じ。)

対応するためのまちづくりの視点から、民間の能力も活用しつつ、互いに連携・協力して、連鎖的な建て替えを進め、新たな機能の導入を積極的に検討することを期待する。新たな機能の検討にあたっては、特に、名古屋城等の歴史的資産を

【資料2】

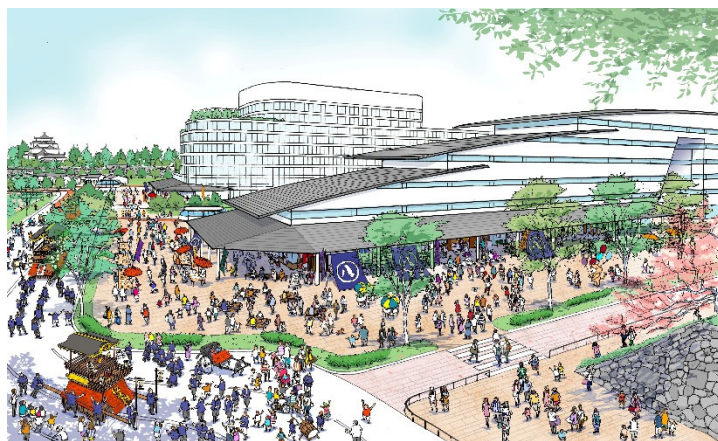
ユニークベニューとして活用した文化発信・交流機能を核として、機運の高まりに応じて、商業・業務機能の導入も検討しつつ、都心に、にぎわいの連続性を創出することを目指すべきである。東京からの民間機能の移転は、三の丸地区のみで完結するものではなく、誘引力を高める観点からの機能導入が必要である。先行して検討が進められている旧-名古屋貯金事務センターへの官公庁施設の集約整備（名古屋第4地方合同庁舎）にあたっては、これらの方向性に寄与するものとなることを期待する。

2) 三の丸と城下町をつなぐ名古屋三大祭の再生に着手

江戸期には絢爛豪華な名古屋三大祭が行われ、三の丸にあった天王社・東照宮と栄三丁目の若宮八幡宮とを結ぶ本町通りを中心に、数多くの山車が城下町を練り歩き、三の丸の境内で奉納からくりを城主、重臣に披露した。戦争による焼失を経て、祭りの規模は大幅に縮小されて現在に伝えられている。

三の丸再整備にあたって、山車、楽車、からくり演技を披露する祭り広場や展示施設の整備について検討すべきである。さらに、本町通りにおいて、一階部分への商業等のにぎわい機能の導入を図りつつ、歴史的な街並みを再生する修景整備を推進する必要がある。こうしたまちづくりの進展の中で、沿道の企業、団体、住民の連携・協働を高め、名古屋三大祭の復活を図るべきである。

この提言を契機として、本町通りの歴史的町並み整備に向けた機運を高めるための議論が活発化することを期待したい。



本町通りから見た再整備のイメージ

3) 南海トラフ巨大地震等の有事に備えた地域強靱化のための拠点整備と連携強化

南海トラフ巨大地震等に備えて、災害即応力の向上や被害想定区域の事前復興の推進を図るため、三の丸地区の再整備にあわせて、国・県・市が一体的に災害対応に当たるための新たな防災センターを整備するなど、三の丸地区を拠点とした国・県・市の防災危機管理面での連携強化を図るべきである。この拠点整備、連携体制の強化により、首都圏に有事があった際のバックアップ機能の強化

【資料2】

にも寄与するとともに、コロナ禍からの経済復興に貢献することも可能となる。また、三の丸地区を起点とした城下町再生により名古屋都心の魅力向上を図り、東京から名古屋都心への民間機能の移転を進めることで、首都圏に有事があった際の民間の事業継続性を高めるべきである。

4) 歴史的建造物である県・市の庁舎の活用による迎賓ホテル・博物館等の整備

愛知県庁本庁舎と名古屋市役所本庁舎は、国の重要文化財に指定されているように、我が国の近代化を担った歴史的に重要な建造物である。海外に比して、歴史的建造物が残りにくい我が国において貴重な財産であり、こうした歴史的資産の積極的な活用には、愛知県民、名古屋市民の郷土への自信を強め、国外からの訪問者のリスペクトを高めることに大きな効果が期待される。

官公庁施設の連鎖的な建て替えにより、機能の集約化を図り、市役所・県庁の本庁舎の別用途への転換を可能とし、文化発信・交流機能の核施設として活用することを検討するべきである。例えば、海外からの賓客をもてなす迎賓館的な宿泊施設、城・刀剣・茶湯等の武家文化に関する「国立博物館（国立サムライミュージアム）」等が検討すべき候補として挙げられる。



県庁舎・市庁舎を望む再整備のイメージ

5) 名古屋城と久屋大通をつなぐにぎわいの創出と SRT による都心回遊

名古屋城の復元整備、金シャチ横丁の拡張を図りつつ、久屋大通の北側の再整備で生まれたにぎわいと連続性を高めるために、1階部分をはじめとして、にぎわい機能の導入を図るべきである。この中に、今後整備される SRT の駐車場を含む交通広場を整備し、名駅地区、名城地区、栄地区を結ぶ都心の回遊性向上を推進すべきである。



久屋大通から見た再整備のイメージ